

vRealize Automation 6.2 から 7.2 への移行

vRealize Automation 7.2

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-002387-03

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2008–2017 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

更新情報	5
1 移行の前提条件	7
2 VMware Identity Manager への ID ストアの移行	11
移行前のテナントのローカル ユーザー アカウントの作成	11
移行前の Active Directory リンクのユーザーとグループの同期	12
3 vRealize Automation 環境の移行	15
4 vRealize Automation の移行後のタスク	19
移行後のライセンス キーの更新	19
移行後の複数のテナントと IaaS 管理者の移行	20
vRealize Orchestrator プラグインの再インストール	21
ロード バランサの再構成	22
vRealize Automation の移行環境の検証	22
組み込みの vRealize Orchestrator エンドポイントをリストアする	22
5 移行に関するトラブルシューティング	25
PostgreSQL バージョンが原因のエラー	25
インデックス	27

更新情報

この vRealize Automation 6.2 から 7.2 への移行ガイドは、製品リリース時に、または必要に応じて更新されます。

vRealize Automation 6.2 から 7.2 への移行ガイドの更新履歴は次のとおりです。

リビジョン	説明
JA-002387-02	次のトピックを更新しました。 <ul style="list-style-type: none">■ 第 1 章「移行の前提条件 (P. 7)」■ 第 3 章「vRealize Automation 環境の移行 (P. 15)」■ 「移行後のライセンス キーの更新 (P. 19)」 次のトピックを追加しました。 <ul style="list-style-type: none">■ 第 2 章「VMware Identity Manager への ID ストアの移行 (P. 11)」■ 「移行前のテナントのローカル ユーザー アカウントの作成 (P. 11)」■ 「移行前の Active Directory リンクの利用者グループの同期 (P. 12)」■ 「移行後の複数のテナントと IaaS 管理者の移行 (P. 20)」
JA-002387-01	第 3 章「vRealize Automation 環境の移行 (P. 15)」 を更新しました。
JA-002387-00	初期リリース。

移行の前提条件

次の前提条件を確認して、移行が正常に実行されるようにします。

開始する前に

- ソース 6.2.x 環境を反映したコンポーネントを含む新しいターゲット VMware vRealize™ Automation 7.2 がインストールされていることを確認します。
- ターゲットシステムで稼動するエージェント（vSphere エージェントなど）に設定されたエンドポイント名が、ソースのインストール環境で使用されているエンドポイント名と同じであることを確認します。
- vSphere および Hyper-V プロキシ エージェント、Citrix Xen Server、およびテスト エージェントについて、インストールされているエージェントの名前がソース システムとターゲット システムの両方で同じであることを確認します。
- クラスタ化された環境の場合は、次の要件を満たすため、vRealize Automation アプライアンス、Model Manager がホストされている IaaS Web Server、および Manager Service のロード バランサを構成します。
 - ロード バランサが適切なマスター（プライマリ、アクティブ）ノードを指し、レプリカ ノードへのトラフィック ルートを除外する必要があります。
 - 構成内で定義された健全性チェック URL をロード バランサに含めません。
- vRealize Automation 7.2 IaaS データベース用のターゲット Microsoft SQL Server のバージョンが 2012 または 2014 であることを確認します。
- ソースおよびターゲットの両方の vRealize Automation 仮想アプライアンスでセキュア シェル (SSH) サービスが動作していることを確認します。
- ポート 22 がソースとターゲットの vRealize Automation 環境間で開いていることを確認します。
- ターゲット環境の各 IaaS サーバ ノードに Java SE Runtime Environment (JRE) 8 Update 91 (64 ビット) 以上がインストールされていることを確認します。JRE をインストールしたら、JAVA_HOME システム変数が、各 IaaS ノードにインストールされた Java バージョンをポイントしているかを確認し、必要に応じてパスを調整します。
- 各 IaaS ノードに PowerShell 3.0 以上がインストールされていることを確認します。

注意 PowerShell 3.0 は、Windows Server 2012 に統合されています。

- ソースおよびターゲットの vRealize Automation 環境が稼動していることを確認します。
- vRealize Automation 6.2.x ソース環境の既存の SSO2 テナントおよび ID ストアを vRealize Automation 7.2 ターゲット環境の VMware Identity Manager に移行します。詳細については、[を参照してください](#)。

テナントとストアを移行する場合、テナント管理者は移行しないでください。移行が完了したら、「複数のテナント管理者の移行」の手順を実行します。詳細については、「[移行後の複数のテナントと IaaS 管理者の移行 \(P. 20\)](#)」を参照してください。

- ソース vRealize Automation 6.2.x IaaS Microsoft SQL データベースの完全バックアップを作成し、このバックアップを使用してターゲット環境に SQL データベースをリストアします。詳細については、SQL Server データベースの完全バックアップの作成および SQL Server データベースの新しい場所へのリストアに関する [Microsoft Developer Network](#) の記事を参照してください。
- 各 vRealize Automation ターゲット 7.2 仮想マシンのスナップショットを作成します。
- 次の表には、移行に必要な環境の値を入力します。

表 1-1. ソース vRealize Automation アプライアンス

アイテム	説明	値
ホスト名	マスターまたはプライマリの仮想アプライアンスの vRealize Automation アプライアンス管理コンソールにログインします。[システム] タブでホスト名を見つけます。	
root ユーザー名	root	
root パスワード	マスターまたはプライマリの vRealize Automation アプライアンスを展開したときに入力した root パスワード。	

表 1-2. ターゲット vRealize Automation アプライアンス

アイテム	説明	値
root ユーザー名	root	
root パスワード	ターゲット vRealize Automation アプライアンスを展開したときに入力した root パスワード。	
デフォルトのテナント	ターゲット vRealize Automation 展開に構成されたデフォルトのテナント。通常は vsphere.local。	
管理者ユーザー名	ターゲット vRealize Automation 環境のインストール時に入力したデフォルトのテナント管理者ユーザー名。通常は administrator。	
管理者パスワード	ターゲット vRealize Automation 環境のインストール時に入力したデフォルトのテナント管理者ユーザーのパスワード。	

表 1-3. ターゲット IaaS データベース

アイテム	説明	値
データベース サーバ	クローン作成されたデータベースが配置される Microsoft SQL Server インスタンスの場所。名前付きインスタンスでデフォルト以外のポートが使用されている場合は、「SERVER,PORT\INSTANCE-NAME」という形式で入力します。	
クローン作成されたデータベース名	ソースでバックアップを作成し、ターゲット環境でリストアしたソース vRealize Automation 6.2.x IaaS Microsoft SQL データベースの名前。	
ログイン名	クローン作成された IaaS データベースに対するアクセスおよび管理を実行するために構成された SQL Server ユーザーのログイン名。	
パスワード	クローン作成された IaaS データベースに対するアクセスおよび管理を実行するために構成された SQL Server ユーザーのパスワード。	

表 1-3. ターゲット IaaS データベース (続き)

アイテム	説明	値
元の暗号化キー	移行手順の最初にソース環境から取得するソース IaaS Microsoft SQL データベース暗号化キー。	
新しいパスフレーズ	新しい暗号化キーを生成するために使用する一連の単語。ターゲット vRealize Automation 7.2 展開に新しい IaaS コンポーネントをインストールするたびに、このパスフレーズを使用します。	

VMware Identity Manager への ID ストアの移行

2

VMware vRealize™ Automation 6.2.x から現行バージョンの vRealize Automation に移行するときは、6.2.x の ID ストアを VMware Identity Manager (vIDM) に移行する必要があります。

vRealize Automation 6.x の ID ストアを移行するには、3 つのタスクを実行します。

- 1 移行の前にテナントのローカル ユーザー アカウントを作成します。
- 2 移行の前に Active Directory リンクのユーザーとグループを同期します。
- 3 移行後に複数のテナントと IaaS 管理者を移行します。

これらの手順を実行するときは、6.2.x テナント構成情報のスナップショットを参照してください。

注意 ID ストアを移行後、vRealize Code Stream のユーザーは手動で vRealize Code Stream ロールを再割り当てする必要があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [移行前のテナントのローカル ユーザー アカウントの作成 \(P. 11\)](#)
- [移行前の Active Directory リンクのユーザーとグループの同期 \(P. 12\)](#)

移行前のテナントのローカル ユーザー アカウントの作成

ID ストアの移行の一環として、ローカル ユーザー アカウントを使用してテナントを設定し、そのローカル ユーザー アカウントにテナント管理者権限を割り当てる必要があります。

各テナントで次の手順を実行します。

手順

- 1 デフォルトのシステム管理者のユーザー名 **administrator** とパスワードを使用して vRealize Automation コンソールにログインします。
コンソールは <https://<vra-appliance>/vcac/> にあります。
- 2 テナントをクリックします。
たとえば、デフォルト テナントの場合は [vsphere.local] をクリックします。
- 3 [ローカル ユーザー] タブを選択します。
- 4 [新規] をクリックします。
- 5 ローカル ユーザー アカウントを作成し、テナント管理者ロールに割り当てます。
ローカル ユーザー名は、vsphere.local の Active Directory で一意である必要があります。
- 6 [OK] をクリックします。

- 7 [管理者] タブをクリックします。
- 8 [テナント管理者] 検索ボックスにローカル ユーザー名を入力し、[Enter] キーを押します。
- 9 [終了] をクリックします。
- 10 コンソールからログアウトします。

次に進む前に

[\[移行前の Active Directory リンクのユーザーとグループの同期 \(P. 12\)\]](#)

移行前の Active Directory リンクのユーザーとグループの同期

ディレクトリ管理機能を使用してユーザーとグループを vRealize Automation にインポートするには、Active Directory リンクに接続する必要があります。

各テナントで次の手順を実行します。

開始する前に

Active Directory へのアクセス権限があることを確認します。

手順

- 1 vRealize Automation コンソール (https://<vra-appliance>/vcac/org/<tenant_name>) にログインします。
- 2 [管理] - [ディレクトリ管理] - [ディレクトリ] の順に選択します。
- 3 [ディレクトリの追加] をクリックします。
- 4 Active Directory のアカウント設定を入力します。

◆ ネイティブ以外の Active Directory

オプション	入力例
ディレクトリ名	一意のディレクトリ名を入力します。 ネイティブ以外の Active Directory を使用する場合は、LDAP 経由の Active Directory を選択します。
このディレクトリは DNS サービスをサポートする	このオプションは選択解除します。
ベース DN	ディレクトリ サーバ検索の先頭に識別名 (DN) を入力します。 たとえば、[cn=users,dc=rainpole,dc=local] と入力します。
バインド DN	共通名 (CN) など、ユーザーを検索する権限がある Active Directory ユーザー アカウントの完全識別名 (DN) を入力します。 たとえば、[cn=config_admin infra,cn=users,dc=rainpole,dc=local] と入力します。
バインド DN パスワード	ユーザーを検索できるアカウントの Active Directory パスワードを入力します。

◆ ネイティブの Active Directory

オプション	入力例
ディレクトリ名	一意のディレクトリ名を入力します。 ネイティブの Active Directory を使用する場合は、Active Directory (統合 Windows 認証) を選択します。
ドメイン名	参加するドメインの名前を入力します。
ドメイン管理者ユーザー名	ドメイン管理者のユーザー名を入力します。
ドメイン管理者パスワード	ドメイン管理者アカウントのパスワードを入力します。

オプション	入力例
バインド ユーザー UPN	メールアドレス形式を使用して、ドメインを認証できるユーザーの名前を入力します。
バインド DN パスワード	ユーザーを検索できるアカウントの Active Directory バインド アカウント パスワードを入力します。

- 5 [接続をテスト] をクリックし、構成したディレクトリへの接続をテストします。
- 6 [保存して次へ] をクリックします。
[ドメインの選択] ページにドメインのリストが表示されます。
- 7 デフォルトのドメイン設定を受け入れ、[次へ] をクリックします。
- 8 属性名が適切な Active Directory 属性にマップされていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 9 同期するグループおよびユーザーを選択します。
 - a [新規] アイコンをクリックします。
 - b ユーザー ドメインを入力し、[グループの検索] をクリックします。
たとえば、**dc=vcac,dc=local** と入力します。
 - c 同期するグループを選択するには、[選択] をクリックし、[次へ] をクリックします。
 - d [ユーザーの選択] ページで、同期するユーザーを選択し、[次へ] をクリックします。
- 10 ディレクトリと同期しているユーザーおよびグループを確認し、[ディレクトリの同期] をクリックします。
ディレクトリの同期には少し時間がかかりますが、バックグラウンドで実行されます。
- 11 [管理] - [ディレクトリ管理] - [ID プロバイダ] の順に選択して、新しい ID プロバイダをクリックします。
たとえば、[WorkspaceIDP__1] をクリックします。
- 12 各 vRealize Automation アプライアンスで手順 1 ~ 11 を繰り返します。
- 13 ページの一番下までスクロールして、[IdP ホスト名] プロパティの値を、vRealize Automation ロード バランサの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指すように更新します。
- 14 [保存] をクリックします。
- 15 各テナントと ID プロバイダについて、手順 13 ~ 14 を繰り返します。

次に進む前に

[第 3 章 \[vRealize Automation 環境の移行 \(P. 15\)\]](#)

vRealize Automation 環境の移行

VMware vRealize™ Automation 6.2.x 環境を vRealize Automation 7.2 の新しいインストールに移行することができます。

開始する前に

- [第 2 章「VMware Identity Manager への ID ストアの移行 \(P. 11\)」](#)。

テナントとストアを移行する場合、テナント管理者は移行しないでください。移行が完了したら、「複数のテナント管理者の移行」の手順を実行します。詳細については、「[移行後の複数のテナントと IaaS 管理者の移行 \(P. 20\)](#)」を参照してください。

- ソース vRealize Automation 6.2.x IaaS Microsoft SQL データベースの完全バックアップを作成し、このバックアップを使用してターゲット環境に SQL データベースをリストアします。詳細については、SQL Server データベースの完全バックアップの作成および SQL Server データベースの新しい場所へのリストアに関する [Microsoft Developer Network](#) の記事を参照してください。

手順

- 1 ソース vRealize Automation 6.2.x 展開から暗号化キーを取得します。
 - a 暗号化キーを取得するには、アクティブな Manager Service をホストする仮想マシン上で管理者としてコマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを実行します。

```
"C:\Program Files
(x86)\VMware\vCAC\Server\ConfigTool\EncryptionKeyTool\DynamicOps.Tools.EncryptionKeyTool.exe" key-read -c "C:\Program Files
(x86)\VMware\vCAC\Server\ManagerService.exe.config" -v
```

インストールディレクトリがデフォルトの場所 (C:\Program Files (x86)\VMware\vCAC) がない場合は、パスを編集して、実際のインストールディレクトリを指定します。
 - b コマンドを実行して表示されるキーを保存します。

キーは NRH+f/B1nCB6yvasLS3sxespgdkcFWAEuyV0g4lfryg= のような長い文字列です。
- 2 ターゲット vRealize Automation 7.2 環境で、ブラウザを起動し、仮想アプライアンスの管理コンソール (<https://<va-hostname.domain.name>:5480>) に移動します。

<va-hostname.domain.name> は、仮想アプライアンスの完全修飾ドメイン名です。
- 3 ユーザー名 **root** と、アプライアンスを展開したときに指定したパスワードを使用してログインします。
- 4 [vRA 設定] - [移行] の順に選択します。

- 5 ソース vRealize Automation アプライアンスの情報を入力します。

オプション	説明
ホスト名	ソース vRealize Automation 6.2.x アプライアンスのホスト名。
root ユーザー名	root
root パスワード	vRealize Automation 6.2 アプライアンスを展開したときに入力した root パスワード。

- 6 ターゲット vRealize Automation アプライアンスの情報を入力します。

オプション	説明
root ユーザー名	root
root パスワード	vRealize Automation 7.2 アプライアンスを展開したときに入力した root パスワード。
デフォルトのテナント	インストールウィザードで Single Sign-On を構成したときに作成したデフォルトのテナント。通常は vsphere.local です。
管理者ユーザー名	vRealize Automation 7.2 アプライアンスを展開したときに入力したテナント管理者ユーザー名。必要に応じて既存の値を変更します。
管理者パスワード	vRealize Automation 7.2 アプライアンスを展開したときに入力したデフォルトのテナント管理者のパスワード。

- 7 ターゲット IaaS データベース サーバの情報を入力します。

オプション	説明
データベース サーバ	リストアされた vRealize Automation 6.2.x IaaS Microsoft SQL データベースがある Microsoft SQL Server インスタンスの場所。名前付きインスタンスでデフォルト以外のポートが使用されている場合は、「<SERVER,PORT\INSTANCE-NAME>」という形式で指定します。
クローン作成されたデータベース名	ターゲット Microsoft SQL Server 上でリストアした vRealize Automation 6.2.x IaaS Microsoft SQL データベースの名前。
認証モード	<ul style="list-style-type: none"> ■ [Windows] Windows 認証モードを使用する場合、IaaS サービスのユーザーには、データベース上での所有者権限または SQL Server 上での sysadmin 権限が必要です。SQL Server 認証モードを使用する場合も同じ権限が適用されます。 ■ [SQL Server] [SQL Server] の場合は、[ログイン名] テキスト ボックスおよび [パスワード] テキスト ボックスが開きます。
ログイン名	クローン作成されたデータベースに接続するための Microsoft SQL ログイン名。
パスワード	クローン作成されたデータベースに接続するための Microsoft SQL パスワード。
元の暗号化キー	ソース vRealize Automation 6.2.x IaaS 環境から取得した暗号化キー。
新しいパスフレーズ	移行した Microsoft SQL データベースに保存されている機密性の高い情報を再暗号化するための新しいパスフレーズ。パスフレーズとは、暗号化キーを生成するために使用される一連の語のことです。これにより、エンドポイント認証情報などのデータベース内のデータを保護することができます。このパスフレーズは、新しい IaaS コンポーネントをインストールするたびに使用します。

- 8 [検証] をクリックします。

ページに検証の進行状況が表示されます。

- すべてのアイテムが正常に検証された場合は、手順 9 に進みます。
- アイテムの検証が失敗した場合は、エラー メッセージと Model Manager Data IaaS ノード上の検証ログ ファイル (C:\Program Files(x86)\VMware\VCAC\Server\<InstallLogs_latest_timestamp>\validate.log) を確認します。[設定の編集] をクリックし、問題のアイテムを編集します。手順 8 に進みます。

- 9 [移行] をクリックします。
ページに移行の進行状況が表示されます。

次に進む前に

[第4章 「vRealize Automation の移行後のタスク \(P. 19\)」](#)

vRealize Automation の移行後のタスク

VMware vRealize™ Automation を移行した後、状況に応じて移行後のタスクを実行します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [移行後のライセンス キーの更新 \(P. 19\)](#)
- [移行後の複数のテナントと IaaS 管理者の移行 \(P. 20\)](#)
- [vRealize Orchestrator プラグインの再インストール \(P. 21\)](#)
- [ロード バランサの再構成 \(P. 22\)](#)
- [vRealize Automation の移行環境の検証 \(P. 22\)](#)
- [組み込みの vRealize Orchestrator エンドポイントをリストアする \(P. 22\)](#)

移行後のライセンス キーの更新

移行の後で、vRealize Automation アプライアンス のターゲット バージョンを使用するためにライセンス キーを更新する必要があります。

開始する前に

- vRealize Automation 6.2.x 環境から vRealize Automation 7.2 環境への移行を正常に完了します。
- ターゲット vRealize Automation 7.2 環境をインストールしたときに入力したライセンス キー。

手順

- 1 完全修飾ドメイン名 `https://<va-hostname.domain.name>:5480` を使用してターゲット仮想アプライアンスの管理コンソールに移動します。
- 2 ユーザー名 **root** と、アプライアンスを展開したときに入力したパスワードを使用してログインします。
- 3 [vRA 設定] - [ライセンス] の順に選択します。
- 4 [新規ライセンス キー] テキスト ボックスで、ターゲット vRealize Automation 環境をインストールしたときに入力したライセンス キーを入力します。
[新規ライセンス キー] タブが利用できない場合は、以下の手順を繰り返します。
 - a 管理コンソールからログアウトします。
 - b ブラウザのキャッシュを消去します。
- 5 [新規ライセンス キー] テキスト ボックスにライセンス キーを入力します。
エンドユーザー使用許諾契約書 (EULA) に従って、エンドポイントと割り当てにフラグが付けられます。
- 6 [送信キー] をクリックします。

移行後の複数のテナントと IaaS 管理者の移行

ID ストア移行ツールを使用すると、複数の vRealize Automation 6.2.x テナントと IaaS 管理者を新たに同期した vsphere.local テナントに移行することができます。また、IaaS 管理者を手動でそれぞれのテナントに追加することもできます。

Linux 環境の場合は、ID ストア移行ツールを管理者として実行します。

Windows 環境の場合は、ID ストア移行ツールを実行するマシンの管理者権限が必要です。

注意 テナントとストアを移行する場合、テナント管理者は移行しないでください。テナント管理者は、移行の完了後に移行します。

開始する前に

マスター vRealize Automation アプライアンスの管理コンソールにログインします。

手順

- 1 完全修飾ドメイン名 `https://<va-hostname.domain.name>:5480` を使用して仮想アプライアンスの管理コンソールに移動します。
- 2 ユーザー名 **root** と、アプライアンスを展開したときに指定したパスワードを使用してログインします。
- 3 [vRA 設定] - [SSO]を選択します。
- 4 ご使用のオペレーティングシステムに応じて、次の手順を実行します。

Linux

- a [ID ストア移行ツール] を右クリックし、[リンク アドレスのコピー] を選択します。
- b root ユーザーとして、vRealize Automation 6.2.x SSO 仮想アプライアンスへのセキュアシェル接続を開きます。
- c コマンドプロンプトで次のコマンドを実行し、**vra-ssm-migration.zip** ファイルをダウンロードします。指定するリンクは、手順 4a でコピーしたものです。

```
wget --no-check-certificate <URL_link_address>
```

たとえば、

```
wget --no-check-certificate https://<va_hostname>.vcac.local:  
5480/service/cafe/download/vra-ssm-migration.zip と入力します。
```

- d 次のコマンドを実行し、ダウンロードした移行ファイルを解凍します。


```
unzip vra-ssm-migration.zip
```
- e **vra-ssm-migration.zip** を抽出したディレクトリで、ディレクトリを **bin** に変更します。


```
cd bin
```
- f **bin** ディレクトリの **migration.properties** ファイルを編集して、プロパティ `vra.system.admin.username` の値を `administrator` から `administrator@vsphere.local` に変更します。
- g 次のコマンドを実行し、テナントと IaaS 管理者を新しく同期する vsphere.local テナントに移行します。

を参照してください。/reassign-tenant-administrators

すでに root ユーザーとしてログインしているため、sudo を使用してこのスクリプトを実行しないでください。
テナントにテナントユーザーが割り当てられている場合でも、完全なテナント管理者権限を取得するには、このコマンドを実行してユーザーを Horizon に登録する必要があります。

Windows

- a [ID ストア移行ツール] をダブルクリックしてダウンロード ディレクトリにダウンロードします。
 - b SSO が実行されている Windows マシンにログインします。
 - c **vra-ssm-migration.zip** ファイルをダウンロード ディレクトリから選択したローカル ディレクトリにコピーします。
 - d **vra-ssm-migration.zip** を右クリックし、[すべて抽出] を選択します。
 - e 抽出した vra-ssm-migration フォルダを開き、bin フォルダを開きます。
 - f **bin** ディレクトリの **migration.properties** ファイルを編集して、プロパティ **vra.system.admin.username** の値を **administrator** から **administrator@vsphere.local** に変更します。
 - g **reassign-tenant-administrators.bat** を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。
- このコマンドを実行する前に、テナントにテナントユーザーが割り当てられていることがわかっている場合でも、完全なテナント管理者権限を取得するにはこのコマンドを実行してユーザーを Horizon に登録する必要があります。
- 5 vRealize Automation アプライアンス デフォルト テナントにテナント管理者としてログインします。テナントごとに [管理者] タブで移行済みのテナント管理者の一覧が表示されることを確認します。

次に進む前に

[第3章 \[vRealize Automation 環境の移行 \(P. 15\)\]](#)

vRealize Orchestrator プラグインの再インストール

移行後に、内部 VMware vRealize™ Orchestrator™ プラグインを再インストールして、プラグインのバージョンの不一致を修正する必要があります。

開始する前に

- [第3章 \[vRealize Automation 環境の移行 \(P. 15\)\]](#)
- vRealize Orchestrator 構成インターフェイスにログインします。[vCenter Orchestrator 構成インターフェイスへのログイン](#)を参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator コントロール センターのホーム画面で、[起動オプション] をクリックします。
- 2 [停止] をクリックします。
- 3 コントロール センターのホーム画面で、[トラブルシューティング] をクリックします。
- 4 [プラグインを強制的に再インストール] をクリックします。
- 5 コントロール センターのホーム画面で、[起動オプション] をクリックします。
- 6 [開始] をクリックします。

ロード バランサの再構成

クラスタ化された環境に移行する場合、移行の完了後に各ロード バランサを再構成する必要があります。

開始する前に

[第 3 章 「vRealize Automation 環境の移行 \(P. 15\)」](#)

手順

- ◆ vRealize Automation アプライアンス、Model Manager がホストされている IaaS Web サーバ、および Manager Service のロード バランサを再構成して、元の健全性チェック設定をリストアし、レプリカ ノードを有効にして、受信トラフィックを受け入れます。

vRealize Automation の移行環境の検証

ターゲット VMware vRealize™ Automation 7.2 環境にすべてのデータが正常に移行されたかどうかを確認できます。

開始する前に

vRealize Automation 6.2.x 環境から vRealize Automation 7.2 環境への移行を正常に完了します。

手順

- 1 vRealize Automation 7.2 環境で、vRealize Automation 6.2.x 認証情報を使用して vRealize Automation コンソールに**管理者**としてログインします。
- 2 [インフラストラクチャ]-[管理対象マシン]の順に選択し、すべての管理対象仮想マシンが存在することを確認します。
- 3 [コンピュートリソース]をクリックします。次に、各エンドポイントを選択して [データ収集] > [今すぐ申請] > [更新]の順にクリックし、エンドポイントが機能していることを確認します。
- 4 [設計]をクリックし、[ブループリント] ページで各ブループリントの要素を選択して検証します。
- 5 [XaaS]をクリックし、[カスタム リソース]、[リソース マッピング]、[XaaS ブループリント]、および [リソース アクション] の内容を確認します。
- 6 [管理]-[カタログ管理]を選択し、[サービス]、[カタログ アイテム]、[アクション]、[資格]の内容を確認します。
- 7 [アイテム]-[デプロイ]を選択し、プロビジョニングされた仮想マシンの詳細を確認します。
- 8 [展開] ページで、プロビジョニングされたパワーオフの仮想マシンを選択し、[アクション]-[パワーオン]を選択します。次に、[送信] > [OK]の順にクリックします。マシンが正常にパワーオンになっていることを確認します。
- 9 [カタログ]をクリックし、新しいカタログ アイテムを申請します。
- 10 [全般] タブで、申請情報を入力します。
- 11 マシンのアイコンをクリックし、すべてのデフォルト設定を受け入れて [送信] > [OK]の順にクリックします。申請が正常に完了したことを確認します。

組み込みの vRealize Orchestrator エンドポイントをリストアする

組み込みの vRealize Orchestrator エンドポイントを vRealize Automation 6.x 導入環境に追加して vRealize Automation の最新バージョンへアップグレードする場合は、接続がリストアされるように vRealize Orchestrator エンドポイントの URL を変更する必要があります。

vRealize Automation 6.x では、組み込みの vRealize Orchestrator の URL は `https://<hostname>:8281/vco` です。vRealize Automation 7.0 以降では、組み込みの vRealize Orchestrator の URL を `https://<hostname>/vco` に変更します。最新バージョンにアップグレードしても 6.x の URL は自動的に変更されないため、システムは vRealize Orchestrator を見つけることができません。この問題を解決するには、以下の手順を実行します。

開始する前に

- **laaS 管理者**として vRealize Automation コンソールにログインします。

手順

- 1 [インフラストラクチャ] - [エンドポイント] - [エンドポイント] の順に選択します。
- 2 [エンドポイント] ページで、vRealize Orchestrator エンドポイントにポイントを合わせ、コンテキストメニューから [編集] を選択します。
- 3 [アドレス] テキストボックスで、vRealize Orchestrator エンドポイントの URL を編集して :8281 を削除します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 vRealize Orchestrator のデータ収集を手動で開始し、データを正常に収集したことを確認します。

移行に関するトラブルシューティング

移行に関するトラブルシューティングのトピックでは、vRealize Automation の移行時に問題が発生した場合の解決策について説明します。

PostgreSQL バージョンが原因のエラー

更新された PostgreSQL データベースが含まれているソースの vRealize Automation 6.2.x 環境では、管理者アクセスがブロックされます。

問題

アップグレードされた PostgreSQL データベースが vRealize Automation 6.2.x で使用されている場合、管理者は vRealize Automation からこのデータベースへのアクセスを提供するエントリを `pg_hba.conf` ファイルに追加する必要があります。

解決方法

- 1 `pg_hba.conf` ファイルを開きます。
- 2 次のエントリを追加して、このデータベースへのアクセスを付与します。

```
host all <vcac-database-user> <vra-va-ip> <trust-method>
```


インデックス

I

ID ストア、移行 11

ID ストアの移行 11

V

VMware Identity Manager、移行 11, 20

あ

アップグレード、vRealize Orchestrator のエンドポイント 22

い

移行

vRealize Automation 15

移行後のタスク 19

前提条件 7

移行後タスク

移行の検証 22

クラスタ化された環境 22

プラグインの再インストール 21

ライセンス キーの更新 19

こ

更新情報 5

せ

接続、ネイティブの Active Directory 12

て

テナントと IaaS 管理者、移行 20

と

トラブルシューティング、外部の PostgreSQL データベース 25

ね

ネイティブの Active Directory ストア、移行 11

ろ

ローカル ユーザー アカウント、作成 11

